

## 【予稿集】

# 日常的インターネットユーザである後期高齢者における健康情報探索の実態

小橋結花\*, 小野寺海帆\*\*, 富田美加\*\*\*

\*前茨城県立医療大学 \*\*筑波メディカルセンター病院 \*\*\*茨城県立医療大学  
\*\*\*tomitam@ipu.ac.jp

超高齢社会を迎え、看護の立場からは、健康情報へのアクセスに関する高齢者の実態を把握することが重要である。本研究では、日常的にインターネットを利用している後期高齢者による健康関連の情報探索行動を明らかにすることを目的として、後期高齢者1名に、オンラインによるインタビューを実施した。その結果、「人」を介した情報の重要性や、「人」との繋がりの中で不足する情報を補う手段としてのインターネットの重要性が示された。

## Health Information Seeking Behavior of Adult Aged Over 75 Years who Use the Internet on a Daily Basis

Yuka KOHASHI\*, Miho ONODERA\*\*, Mika TOMITA\*\*\*

\*Graduate of Ibaraki Prefectural University of Health Sciences

\*\*Tsukuba Medical Center Hospital

\*\*\*Ibaraki Prefectural University of Health Sciences

### 1. はじめに

スマートフォンの普及に伴い、インターネットを日常的に利用する後期高齢者は今後増加していくことが予想される。金城ら[1]によれば、高齢者における医療・健康情報の入手について「65%の人が情報の信頼性への不満をもち、それ以外にも、情報量の多さ、情報内容のわかりにくさ、情報検索方法について多くの人が不満をもっていることがわかる」と述べるとともに、「インタビュー調査や医療・健康情報探索過程についてのより詳細な研究が必要である」と指摘している。

### 2. 研究目的

本研究の目的は、日常的にインターネットを利用している後期高齢者による健康関連の情報探索行動の実態を明らかにすることである。

### 3. 研究方法

#### 3.1 データ収集方法

2021年9月に、Web会議サービス Zoom によるインタビューを実施した。機縁法による募集を経て、毎日インターネットを利用している75歳以上の1名が参加した。

#### 3.2 インタビュー内容

「新型コロナワクチンに関する情報探索行動」及び「健康全般に関するインターネットによる情報探索行動」について質問した。

なお、本研究は、茨城県立医療大学研究倫理審査委員会(受付番号 1001)の承認を得て実施した。

### 4. 結果

逐語録から146のコードを抽出し、38のサブカテゴリにまとめた後、4つの観点で整理した。

得られた結果について、概要を表1に示す。

表1：後期高齢者の語りから得られた現状

No.	項目	カテゴリ (サブカテゴリ数)
1	インターネットの利用状況	スマートフォンによる日常的な検索 (4) 身近な存在としてのネット検索 (3)
2	新型コロナワクチンに関する情報探索	多様な情報源にあたる契機 (2) 知人・友人 (2) マスメディア (1) チラシ (1) 自治体が発行している紙媒体 (1) 電話 (1) インターネット (4) 医師 (1)
3	健康に関するインターネット活用	自分の疾患・薬・体調 (5) 友人の疾患 (1) 健康増進 (2) ネガティブに感じる点 (1)
4	健康に関するインターネット以外の情報源	友人・知人 (3) 新聞 (1) 本・広報誌などの出版物 (2) 医師 (3)

## 5. 考察

### 5.1 インターネットの利用状況

スマートフォンに対して、パソコンより操作性やモバイル性が優れていると感じていることから、後期高齢者である研究参加者にとって日常生活を送る上で身近で便利な存在となっていた。また、インターネットの利用目的は健康に関する情報に限らず、興味関心に応じて趣味から時事問題まであらゆることを検索し、生活の中でネット検索が身近な存在となっていた。

### 5.2 コロナワクチン接種に関する情報収集過程を

## 事例とした健康に関する情報探索行動

コロナワクチン接種を終えて一段落した時期にインタビューを実施したため、コロナワクチンに関する情報探索場面について質問した。研究参加者の「ワクチンを接種したい」という強い気持ちがあるが、多様な情報源を活用して情報収集しようとする動機となって、多岐にわたる情報源が利用されていた。

### 5.3 インターネット検索に焦点化した健康に関する情報探索行動

インターネットを有効活用することによって利便性が高まる一方、ネット広告への不快感や、信頼性が担保されないサイトに誘導されてしまうのではという不安を持っていることも示された。

### 5.4 後期高齢者におけるより望ましい健康情報へのアクセスに向けた示唆

健康に関する適切な情報を入手・活用する上で、「人」と「インターネット」と「その他の情報源」のバランスが取れるような体制作りが、今後重要になるのではないかと考える。

## 6 結論

日常的インターネットユーザである後期高齢者の健康情報探索において、「人」を介した情報が基盤となっていることや、それらを補う手段としてインターネットやその他の情報源を適切に活用することの重要性が示された。

### 注・文献

- [1] 金城光, 石井国雄, 齊藤俊樹, 野村信威, 濱田明日也. 高齢者の医療・健康情報の入手状況と課題. 老年社会科学. 2017, vol.39, no.1, p.7-20.